

未来館

vol. 87

News



特集

未来館トークサロンin会津大学短期大学部
「女性議員と話そう」

「女性議員と話そう」

令和5年12月6日に、会津美里町議会議員の小柴葉月さん、磐梯町議会議員の古川綾さんをお招きしまして、議員になられたきっかけ、現在取り組んでおられること等お話いただき、会津大学短期大学の学生さんと意見交換を行いました。



会津美里町議会議員
小柴葉月さん
Koshiba Hazuki

6~15歳	小中学校(バスケ、野球)	横浜
16~18歳	高校(女子野球)	↓
19~22歳	大学(体育学部)	沖繩
23歳	就職(学童保育)	東京
24歳	旅(石垣島)	会津美里
24~26歳	歌(東京)	↓
26歳~	農業	
27歳~	議員	
28歳	結婚(渡辺→小柴)	

移住のきっかけ…

3年前に会津美里町に移住してきました。いまは29歳です。

24歳の時に「誰一人知らない環境で一から人間関係を作る修行をしよう。」と思いたって沖繩に移住し、自分で仕事、仲間をみつけて生活しました。その時の経験は今でも私の財産になっています。続いて東京に移住しましたが、ちょうどコロナ禍で、トイレトパーパーや、食料品も買うことができず、その時に、「田舎があつての東京なんだなあ。食べるために生産しなければいけない。」と思い、伝手を頼りに各地域の農家さんを見学しました。

会津美里町は、土地も良く、そこで働いている方からの後押しもあり、移住を決めました。農業法人に3年間就業、令和5年5月に退職し、自分の畑を探しているところです。

議員になるきっかけ…

農業は補助金を使うことができますが、補助金は税金なんですね。私は、ずっと税金を一生懸命払うだけで、その税金が何に使われているのか考えていないことに情けなく思いました。また、町づくり団体の方から移住者という立場でスピーチを頼まれた時、その方々の話を聞き、純粋な気持ちで町を良くしたいという姿勢に感銘を受けました。議会の傍聴に行き一般質問など聴いた時に、町づくり団体の皆さんと話したことを届けたいと思い、私も議員になれるのではと思ったのがきっかけで立候補し、当選しました。

当選後、感じたこと…

結婚したことで名字が変わり、旧姓のまま議員を続けようと思っていた矢先、「議会で決まりがな

いため、戸籍上の名前をお願いします。」とのことでした。他の自治体を検索しますと、それぞれ議会のルールを作り旧姓使用を認めているところもありますが、会津美里町にはありませんでした。私は「渡辺葉月」として生きてきて、特に女性、男性でもないスタンスで過ごしていましたが、結婚をして、誰かの妻として見られる経験を初めてしました。

学生の皆さんへ…

大学時代に私は、警察官になり非行に走る子どもたちを助けたいと思っていましたが、より子どもに密着した職業ということで学童保育の先生になりました。先生の業務は、子どもの保育だけではなく事務の作業が多いため事務の作業はやりたくないと思い、たまたま沖繩と出会い、行きたいと思いましたが、社会人1年目で会社を辞めるのは非常識であり、ダメ人間なのではと思ってしまいました。しかし、よく考えてみれば、それは社会の常識や一般的な見方であり、これは私の人生なのだから、私が責任を持って判断しなければならないと考え、そちらに舵を切って仕事を辞めました。

29歳になり振り返った時に、悩みもたくさんありましたが、全てが繋がっているというのが印象です。スポーツ、子どもとの関り、農業のことなど全てが、町の政治に関わってくるので、無駄ではなかったと思います。それは、私が一生懸命守ってきた自分の判断で自分の人生を悩んでいくという覚悟があったからこそであり、例えば、他人のベクトルで動いていたら違う結果になっていたと思います。学生の皆さん、迷うことがたくさんあると思いますが、ぜひ自分と向き合って自分の人生に責任を持って歩んでいただきたいです。



磐梯町議会議員
古川綾さん
Furukawa Ayaka

0歳~	磐梯町の農家の長女として生まれる	磐梯
18歳~	8年間学生(大学、留学、大学院)	東京
26歳~	就職(出版社で広告の企画営業)	↓
30歳~	結婚、子育て(時短勤務)	磐梯
34歳~	次男の里帰り出産、震災後の農業にショック	↓
36歳~	磐梯町にUターン、起業(農産物加工販売)	
37歳~	議員	

学生時代、就職、Uターン…

私は磐梯町の農家の長女に生まれました。大学では、アジアの政治経済、文化の研究を学び、そのまま大学院に進み、海外の大学等でも研究を進めていました。その間、ずっとアルバイトをしていて、実家に帰るたびに、「いつ就職するのか」と聞かれ、ふと気づくと研究室に残っているのは経済的に余裕のある人ばかりで、このまま研究は難しいと思い、26歳で東京の出版社に就職しました。割と厳しい会社で仕事は大変でしたが、成果を出せば評価をもらえるので、楽しく働いていました。

震災の翌年に次男の里帰り出産をしました。当時、実家では米、蕎麦、シタケを作っていたのですが、シタケは放射線量が高く全面出荷停止、蕎麦の価格は3分の1となり、ショックを受けました。

私は企画営業の仕事をしていたので、自分の売力を実家と地域のために活かせないかと思い、農業を軸に地域おこしをすることを自分の使命にしようと思い、磐梯町にUターンしました。

戻った年に地域の良いものを全国へ届けたいという思いから、農産物の加工販売の会社を立ち上げましたが、米は差別化が難しく、湯川村のように磐梯町でもふるさと納税できないかと思い、町に話をしました。しかし町は動きませんでした。

私はUターンして1年だったため、誰も私のことを知らないですし、町ぐるみで農業を何とかしなければならぬ、発言権を得たいと思い、議員に立候補しました。

選挙活動、そして当選後…

当時、同じ集落の親戚が現職で議員だったため、家族は大反対でした。当然、集落にも応援を頼めませんので、農業仲間と2人で活動していました。自分の考えを広く伝えるため「磐梯遊報」という広報を毎月新聞折り込みしました。これは誰が書いてのかと話題になり、存在を伝えることができました。選挙期間に入り、facebookにアップしたビー

ルケースに乗った演説の様子も話題になりました。磐梯町で女性が立候補するのは初めてだったため、「女性が出ている」「比較的若い」と注目され、それまでは60、70代の男性が多い議会だったのですが、トップ当選をさせていただきました。

議員になってからは違った大変さがありました。昔ながらの議会なので発言するたびに、また、活動報告を載せた「あや通信」を出すたびに先輩議員に呼び出されてお叱りを受け、理不尽な思いをした4年間でした。2期目からは自由に活動することができるようになり、そして今、3期目になり、副議長となることができました。希望を捨てず堪えることも大事だと感じています。

議員のやりがいについて…

議員それぞれにやり方があると思いますが、私は町民の皆さんの「困った」と「やりたい」に寄り添うことをモットーにしています。具体的には、不妊治療の助成について声を頂き、町と相談し他の市町村の事例を調べ、制度が実現しました。磐梯町の不妊治療への支援は、助成額も支援内容も県内でもトップクラスだと思っています。他にも100円リサイクル市という、全て100円で売るフリーマーケットのような市をやっています。「あや通信」を年に6回ほど発行し、町の動きなどを皆さんにお伝えしながら、要望を聞いて次はどうしていくのか町と一緒に取り組んでいます。

最後に学生の皆さんへ、人生、仕事をしていく中でいろいろあると思いますが、その時々目の前のことを楽しみながらがんばっていただきたいと思っています。

意見交換

Q1 最近、女性議員の方が増えて社会全体で女性の活躍が目立っていますが、議員として活動していく中で、女性ということで活動しにくい、または違和感がありますか。

小柴さん：旧姓使用が認められないことですね。また、16人の議員のうち、女性は私を含めて2人います。私は孤立しないように心がけていますが、人と群れないので、女性だから困ったとか、お茶くみなどの経験は特にはないです。

古川さん：私も似たような感じでして、どちらかと言いますと、男っぽいタイプと思います。

私の他にも女性議員がいますが、男社会の中でやっていくのは、同じように男らしく振舞うか、女らしく振舞ってかわいがられるかのどちらかでない大変だったというのはありましたね。セクハラについては、自分が気が付いていないだけかもしれません。

Q2 町議会議員にお二人の年代の若い女性が入ることで町議会全体の変化であったり、ご自身の心情に変化がありましたか。

小柴さん：私と同時に一期目の議員が6人誕生して、その方たちは明日がある人だと思いました。明日のある人たちは、明日を生きるから未来の話をするんですね。「こうした方がいい」、「ここは変えたほうがいい」とか。一方で「このままがいい」など、変化を嫌う方も多いので、やっぱり町の政治、議会の中に組織的に若い世代が入っていくことで、変化を恐れることが無くなり、アップデートのスピー

ドが早くなると思います。

古川さん：議員が仕事をするようになったと思います。というのも、議員を名誉職のようにとらえ、議員であること、議会に出ることが大事だと考える方もいまして、活動報告の新聞折込も、個人では私が出すまで誰も出しておらず、「あや通信」が出てから他の議員も出すようになりましたね。

Q3 お二人とも「群れない」とおっしゃっていましたが、自分を強く持つにはどうしたらいいでしょうか。

小柴さん：以前は、世の中の常識や多数派の意見につられがちでした。そんな時は一回ストップして、本当に私の意志か確認するんです。一個一個の決断をなぜ、「はい」なのか、「いいえ」なのかをちゃんと自分の意志を持って判断することが大事です。

古川さん：「群れない」ですが、意見が一緒の人たちとは一緒に仕事します。自分を強く持つというの

は私にとって、農業を軸に地域おこしをしようと決めた36歳の時の使命が根底にあります。

議員になり、迷うこともあり、いろいろ大変です。たくさん声をいただくので、全部に答えることはなかなか難しいのですが、何が地域のためになるのかを基本に考えようとしています。



Books <<当センター図書室所蔵の>> オススメ本

1 『フェアな民主主義へ 地方自治のリアル』

奈須りえ/著 水声社 2023年▷
専業主婦から東京都大田区の議会議員5期目を務めた著者がフェアな民主主義について記した一冊です。

2 『ラブコールさかい 女に議員はムリですか？ 境町初の女性議員の体験をあなたにつなぐ』

内海和子/著 梨の木舎 2021年▷
1999年から2017年までの4期にわたって地方の町議会に勇気をふるい立ち向かった女性議員の記録です。

3 『政治って面白い！ 女性政治家24人が語る仕事のリアル』

三浦まり/編著 花伝社 2023年▷
女性政治家たちの座談会・インタビュー・対談から構成された本です。党派を越えて生き生きと活躍している女性政治家たちの生の声を聞いて、政治家の仕事におけるエンパワメントを知ることができます。

4 『ジェンダーのとびらを開こう 自分らしく生きるために』

村田晶子 森脇健介[ほか]/著 大和書房 2022年▷
「ジェンダーとは?」「性の多様性」「同性婚とパートナーシップ」等について高校生や大学生の視点で分かりやすく書かれた図書です。

5 『同性パートナーシップ証明、はじまりました。 渋谷区・世田谷区の成立物語と手続きの方法』

エスマラダ KIRA/著 ポット出版 2015年▷
日本全国先駆けとなる「同性パートナーシップ制度の条例」が成立した東京都渋谷区と世田谷区の例を誕生から書類作成の手引きまで詳しく説明した一冊です。

6 『同性婚 だれもが自由に結婚する権利』

同性婚人権救済弁護団/編 明石書店 2016年▷
生きづらさや同性愛への差別や偏見についての考察や、憲法や法律の論点、同性パートナーシップ制度等の解説があります。

問い合わせ 福島県男女共生センター図書室 ☎0243-23-8308

開館時間 9時～20時 (休館日前は17時、休館日は月曜日)





伊達市未来政策部協働まちづくり課
斎藤智樹さん(左) 浅野和典さん(右)

令和6年1月に伊達市において、福島県で初となる「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」が導入されました。

今回、伊達市役所の未来政策部協働まちづくり課の浅野和典さん、斎藤智樹さんに制度を導入された経緯など、お話を伺いました。

伊達市「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」

伊達市のパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度は、一方または双方が性的マイノリティのお二人が性別などにかかわらず、お互いを人生のパートナーとして、日常生活において協力し合うことを約束し、パートナーシップの関係にあることを宣誓する制度です。また、お二人にお子様や親などがある場合は、あわせてファミリーシップも宣誓できます。

Q1 「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」導入されたきっかけについて教えてください。

A 伊達市の第二次男女共同参画プランの改定を令和4年度より進めていまして、プランの中でパートナーシップ・ファミリーシップの文言は含まれていないのですが、多様な生き方を尊重する行政サービスの実施という目的で、令和5年3月にプランを改定いたしました。

また、同時期に伊達市の議会から、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度についての一般質問をいただいたことも、導入のきっかけとなりました。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について、導入の要望や性的マイノリティの方か

らのご相談等は特にありませんでしたが、多様な生き方を尊重し、市民の皆様のご理解を促進するための手段としまして、早期に導入しようと考えました。また、全国と比べた東北の導入率の低さも、早期に導入すべきと判断した理由のひとつです。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について、自治体が相互連携し、転出入の際に新たに申請手続きをしなくても良い制度を導入している都市部の自治体もあります。

今後、伊達市では制度導入された他の県内市町村との協定、連携ができればと考えています。

Q2 パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度、また伊達市の特色について教えてください。

A パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度は、基本的に同一世帯が原則ですが、転入予定でも申請可能です。

パートナーシップ宣誓制度につきましては、一方または双方が性的マイノリティの方を対象としています。事実婚の方も対象とした自治体もありますが、伊達市は、性的マイノリティの方の人権尊重に主眼を置いた制度としました。

また、ファミリーシップ宣誓制度に関しましては、パートナーの子や親(養子、養親も含む)、または別居している親等も対象としています。伊達市男女共同参画審議会から、今後さらなる少子高齢化が懸念されることから、対象者を幅広く認めてはどうかという意見を受け、対象者を決めました。伊達市の制度の特色としまして、3つご紹介いたします。

①市営住宅の入居申し込みについて

親族関係がないと入居できないと条例で定めている自治体が多いのですが、パートナーシップを宣誓された方も、市営住宅の入居の受付申込が可能となりました。

②住民票の続柄の記載について

住民票の続柄は、婚姻者は「夫」や「妻」、同居者は「同居人」と表記されます。パートナーシップ・ファミリーシップを宣誓された場合、親族関係とほぼ同等とみなし選択ができるようになりますので、宣誓後、宣誓証明カードを市民課の窓口にご提出いただきますと、住民票、住民基本台帳の記載を「同居人」から「縁故者」(縁やゆかりのある人)に変更することができます。

③「だて結婚新生活支援事業補助金」について

婚姻1年以内の世帯を対象としていた住居取得費や家賃、引っ越し費用の補助申請がパートナーシップを宣誓された方も対象となります。

他にも利用できる行政サービスがございますので、詳しくは「利用可能な行政サービス一覧」をご覧ください。伊達市役所で行うサービスにつきまして、随時拡充していく予定です。

今後、民間の企業へも制度のご理解をいただき、提供できるサービスを増やせるよう一層の情報発信、理解の促進に力を入れたいと思います。

「利用可能な行政サービス一覧(令和5年11月現在)PDF」は、こちら→



Q3 伊達市「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を検討しておられる方へメッセージをお願いします。

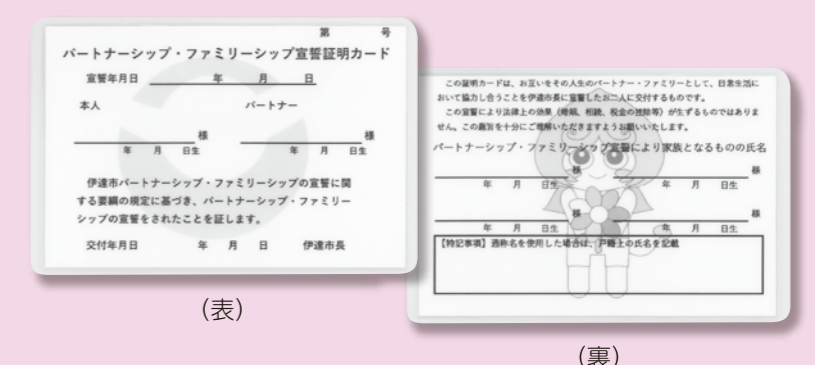
A 性的マイノリティの方が生活をする上で、不自由と思われることが多々あると思います。この制度について多くの方にご理解いただき、性的マイノリティの方が少しでも住みやすい環境となるよう目指しております。伊達市に住んでいただき、誰もが住みやすく一人ひとりが輝ける社会の実現に向けて、これからも努力してまいります。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度に関する相談やその他の相談については、プライバシーに配慮しまして、インターネットを通じた相談等や専用の入力フォームも開設しています。また、市役所にお越しの際は、ご希望があれば個室での対応も可能です。まずはご相談ください。

ガイドブック



宣誓証明カード



(表)

(裏)

「伊達市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」に関するホームページはこちら→



お問合せ先 | 伊達市未来政策部協働まちづくり課
電話 024-575-1177

最近メディア等でも性的少数派、LGBTQという言葉
を聞くことが増えましたが、相談室にも当事者の方を始め
様々な立場や考えの方からの相談が寄せられます。

性を男女二つに分けて考えてしまいがちですが、そのよ
うに単純なものではなく、身体的な特徴や自分の性別認
識、どんな人を好きになるか、服装やしぐさ等、自分をどう
表現するかは多種多様で一人ひとり違います。

男女別という感覚がある、例えば学校や会社の制服、髪
型やトイレ問題、恋愛や結婚等、「当たり前」という社会的
固定観念に縛られ、傷ついたり苦しくなっていませんか。

様々な違いを認め合い、自分らしく生きていくためにも
疑問や違和感、不安なこと等話をしながら一緒に考えて
いきませんか。

お電話お待ちしております。

相談室

電話番号 0243-23-8320

開設時間：9時～12時・13時～16時

[水曜日] 13時～17時・18時～20時

●一般相談(電話・面接・予約制)

相談無料・秘密厳守

●専門相談(完全予約制・面接)

●法律相談(主に第3水曜日)

●女性のためのカウンセリング(主に第1・3金曜日)

●女性のための生活設計相談(年3回)

※詳細はHP、メールマガジン等をご確認ください。

●男性相談員による相談(火曜日17時～20時電話のみ)

アンケートにご協力ください。

広報誌「未来館NEWS」では、よりよい紙面づくりのため、アンケートを実施
しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにて
お受けしています。

アンケートはこちら→



表紙イラスト&4コマ漫画作者

ico.さんの紹介

「未来館NEWSは、自分・社会・未来と向き合う時間をくれる冊子です。表紙と4コマは、そんな時間に寄り添うような作品を目指しています。」

1985年宮城県名取市生まれ、福島県福島市在住。

女性誌や企業広告をメインに、自治体の観光PRのデザインやイラストも手掛ける。福島市防災士の会会員。防災啓発をイラストで伝える。

講演や問い合わせはHPへ
<http://icollection.me/>

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL: 0243-23-8301(代) FAX: 0243-23-8312

<https://www.f-miraikan.or.jp>



X



Instagram